



PRESS RELEASE

令和 8 年 3 月 27 日
岡 山 大 学
日本赤十字広島看護大学

視覚記憶の長期持続性～わずかな経験が認知と行動を生み出す～

◆発表のポイント

- ・物や人の顔、景色など、私たちは日々膨大な視覚情報を受容しています。本研究は、数秒程度見ただけの視覚情報を、非常に詳細なまま少なくとも 3 週間は保持できることを実験により示しました。
- ・本研究の結果は、言語化困難な感覚的な経験が長期的に記憶として残り続け、その後の認知や行動に潜在的に影響を及ぼすことを示すものであり、人の認知や行動の変容における感覚的な経験の重要性を示すものです。

私たちは常に、視覚情報や聴覚情報などの膨大な感覚情報を受容しながら生活しています。これらの情報はいかに記憶として残り、私たちの認知や行動に影響するのでしょうか。岡山大学学術研究院教育学域の寺澤孝文教授、日本赤十字広島看護大学の益岡都萌講師らの研究グループは、ヒトがわずかに数秒程度見ただけの視覚情報を、非常に詳細なまま少なくとも 3 週間程度の長期にわたり保持できること、そしてわずかな経験により獲得した記憶が我々の認知や行動を自動的に変容させることを実験により示しました。この研究成果に関する論文は、心理学系の国際誌「*Attention, Perception, & Psychophysics*」に採択され、2025 年 6 月 20 日よりオープンアクセス論文として公開されています。

本研究の結果は、基礎研究の成果として人間の記憶の頑健性に関するエビデンスを提供することに加えて、我々の日常生活における一瞬一瞬の感覚的な経験の連続が、認知や行動の変容に対していかに重要な要因であるかを示すものです。教育では経験・体験を伴う学習が重要であると言われていますが、「なぜ経験が重要なのか」という問いに対し、本研究の成果は「過去のわずかな経験が現在の認知や行動を生み出す」ことを科学的なデータで示すものです。本研究の成果をもとに、今後は視覚処理における記憶の影響についてさらに研究を進めていきます。

これまでに非常に多くの個別実験を繰り返し、本研究の発表に至りました。岡山大学の学部生の方、大学院生の方を中心に実験に参加してくださった全ての方に心より御礼申し上げます。



益岡講師



PRESS RELEASE

■発表内容

<現状>

私たちは日常生活の中で、目の前で起こっている視覚的な変化を見落としてしまうことがしばしばあります。原因の一つとして、視覚情報に関する記憶が脆いためであることが従来指摘されてきました。しかし最近の研究では、人間の視覚的記憶は我々が思っている以上に頑健なものであることが複数の研究により示されています。

<研究成果の内容>

先行研究では、日常生活でよく見る物体や情景など有意味な視覚情報を材料として、意識的に思い出すことができる記憶を対象に、視覚的記憶として保持できる容量の大きさや正確性が示されています。一方で、言語化が困難な感覚的な経験により獲得された視覚情報がいかに正確に長期記憶として保持されるかについては議論が乏しい現状がありました。わずか数秒程度の感覚的な経験で得た記憶はその後意識的に思い出すことが困難ですが、このような記憶は潜在記憶と呼ばれます。私たちの研究グループは視覚的記憶に基づく認知判断における潜在記憶の長期的な作用に注目し、これを検出する実験課題を用いて、感覚的な経験により獲得された視覚情報が、本人の意識にかかわらず非常に正確なまま3週間という長期にわたり保持され、認知判断に利用されることを示しました。

<社会的な意義>

本研究は、人間が有意味な視覚情報だけでなく、言語化困難な感覚的な視覚情報すらも非常に精緻な記憶として保持できることを示したことで、視覚的記憶の頑健性を裏付ける知見となります。また、応用的な意味として、教育の場をはじめ様々な場面で「経験が重要」と考えられていることについて科学的な根拠を提供します。

■論文情報

論文名：Implicit effect of visual long-term memory for nonverbal objects on recognition judgment

掲載誌：*Attention, Perception, & Psychophysics*

著者：Tomoe Masuoka, Megumi Nishiyama, Yuna Tsurusaki, Takafumi Terasawa

DOI：<https://doi.org/10.3758/s13414-025-03108-4>

URL：<https://link.springer.com/article/10.3758/s13414-025-03108-4>

■研究資金

本研究は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）「戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期／ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」と独立行政法人日本学術振興会（JSPS）「科学研究費助成事業」（基盤C・23K02892・研究代表：益岡都萌）の支援を受けて実施しました。



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY



PRESS RELEASE

<お問い合わせ>

岡山大学 学術研究院教育学域

教授 寺澤孝文

(電話番号) 086-251-7714

日本赤十字広島看護大学 看護学部

講師 益岡都萌

(電話番号) 0829-20-2855



Japan.
Committed
to the SDGs



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



岡山大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。